

森と海の自然科の皆様

平成28年5月吉日

大阪湾生き物一斉調査のお知らせ

日 時 平成28年6月9日(木) 11:00～16:00(小雨決行)

集合場所 南海電鉄 貝塚駅東口 午前11時

参考;南海難波駅 10時23分発 貝塚駅着10時52分

(南海本線 空港急行 関西空港行き)

貝塚駅東口 水鉄バス→市民の森下車

持ち物 弁当 飲み物 帽子 雨具 軍手 濡れても良い履物 タオル等
各自暑さ対策願います。

＊担当についてのお願い

採集同定用道具器具類・テントなどの運搬 並木さん

紙コップ マジックペン 日景さん 前窪

No.カード 石原さん

写真・同定記録・・・貝類 坂根さん 大石さん 浅野さん 甲斐さん 伊藤さん

カニ類・その他 石原さん 並木さん 杉谷さん 中東さん 万井さん

植物類 李三さん 藤本さん 藤井さん 丸山さん

海藻類 前野さん 中曽根さん 山下さん 倭さん

行程 11時30分自然遊学館到着。プリント類等配布、近木川河口域に移動。テント張り等
生き物調査の準備。昼食。13時生き物一斉調査開始。15時同定作業。16時解散予定。

＊講座生の教育実習対象行事です。(現時点は参加人数未定)

ASの同行ない時は 石原さん講座生の人数確認、誘導をお願い致します。

◎熊手 バケツなど持ち帰っている方は当日必ず持参して下さい。

より良い生き物調査になるように皆さんの協力よろしくお願い致します。

海担当 石原 金高 児玉 並木
日景 藤本 前野 前窪

私たちの身近な大阪湾に どんな生き物がいるのかな？

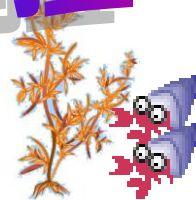
おおさかわん いきもの いっせいちょうさ

第9回 大阪湾生き物一斉調査



さんかしゃぼしゅうちゅう

☆☆☆参加者募集中☆☆☆



『大阪湾生き物一斉調査』とは、大学・市民団体・国および地方自治体等で構成する「大阪湾環境再生連絡会」が大阪湾の沿岸で活動する団体の協力を得て、皆さんと一緒に各地の生き物を一斉に調査する取り組みです。この調査の結果は大阪湾の各地の水環境を把握する基礎資料にしますので、是非ご協力下さい！

～ 大阪湾の生き物たちに触れあい、身近な大阪湾を楽しんでみませんか？ ～



- ◆日時 平成28年6月9日(木) 11:00~16:00 (小雨決行)
[荒天時の場合は中止します]
- ◆場所 近木川河口(貝塚市) 貝塚駅東口集合 水鉄バス→市民の森下車
- ◆対象 海の生き物に興味をもたれている方ならどなたでも
[小学生以下のお子様は必ず保護者同伴でご参加下さい]
- ◆参加費 無料 (ただし、集合場所までの交通費は各自ご負担ください。)
- ◆主催 大阪湾環境再生連絡会
[地域担当団体: NPOシニア自然大学校]
- ◆講師 近木川河口担当 貝塚市立自然遊学館 山田 浩二先生

□大阪湾環境再生連絡会 構成団体(事務局: 国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所)

行政機関: 国土交通省近畿地方整備局、第五管区海上保安本部、大阪府、兵庫県、大阪市、神戸市、堺市

関係機関: 大阪市立自然史博物館、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所、大阪湾広域臨海環境整備センター、(一財)大阪湾ベイエリア開発推進機構、きしわだ自然資料館、兵庫県立農林水産技術総合センター

市民団体等: 海藻おしばくらぶ、NPO 法人近畿みなとの達人、NPO 法人釣り文化協会、西淀自然文化協会、大阪湾見守りネット

参加大学: 大阪大学

第9回大阪湾生き物一斉調査（NPO 法人シニア自然大学校）

「参加募集要項」 2016年6月9日 11:00～16:00 近木川河口 南海電鉄貝塚駅東口集合

- 持ち物： 弁当、飲み物、筆記用具、帽子、タオル、長靴又は海水に浸かってもよい運動靴、軍手、雨具、靴下、着替えなど
- 注意事項：調査場所は滑りやすい箇所もあるため、十分ご注意ください
- 免責事項：主催者側（大阪湾環境再生連絡会事務局：国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所）で行事参加中の保険をかけますが、故意による障害等、保険金を支払えない場合があります
- 応募方法：申し込み・問い合わせ先まで FAX または E-mail で住所、氏名、年齢、性別、連絡先を記載しお申込ください。（シニア自然大学校本科講座生の方は担当 AS 経由お申込みください）
応募締切：**6月2日(木)必着** 定員約**20名**（先着順）
- その他：応募者が定員を超えた場合、または開催の中止などの連絡は、下記窓口より参加者へご連絡いたします

申し込み・問い合わせ：

NPO 法人シニア自然大学校調査研究部森と海の自然科（代表：杳三文作）

〒540-0032 大阪市中央区天満橋京町 2-13 405 号
☎06-6937-8077 FAX06-6937-8078 e-mail : wakana@vesta.ocn.ne.jp
携帯☎090-1672-2808

◆◆◆ 参加申込書 ◆◆◆

参加者① (代表)	氏名	年 齢	性別
	ワガナ		男・女
	住所（連絡先）		
	〒 — 電話番号： FAX 番号： E-mail：		
参加者②	氏名	年 齢	性別
	ワガナ		男・女
	住所（連絡先）		
	〒 — 電話番号： FAX 番号： E-mail：		
参加者③	氏名	年 齢	性別
	ワガナ		男・女
	住所（連絡先）		
	〒 — 電話番号： FAX 番号： E-mail：		

※ご記入いただいた個人情報につきましては、保険の加入及び緊急時の連絡（調査の中止の連絡）等）に使用し、本調査本目的以外に使用することはありません。

大阪湾生き物一斉調査 近木川河口 記録

日 時 2016年6月9日(木) 午前11:00～午後4:00くらい

集合場所 南海電鉄貝塚駅

参加者 19名 浅野、伊藤、大石、甲斐、児玉、坂根、杉谷、中東、中曽根、並木、日景、藤本、
前野、万井、李三、山下、倭、前窪、石原

教育実習生 8名 水生生物科 1名 国土交通省近畿整備局 1名

同定作業を貝塚市自然遊学館児嶋格先生、山田浩二先生

天 候 曇り後晴れ

大阪湾生き物一斉調査は、大阪湾沿岸で海や環境に関心のある各種の団体が参加して、大阪湾を取り囲むように各地の生き物を年1回一斉におとなも子どもも一緒になって、水辺の生き物(カニ、貝、魚、植物など)を探し、採集し、名前を調べる取り組みです。今回は9回目でした。

11時南海貝塚駅に集合、バスで市民の森、徒歩で近木川河口

本年調査テーマはフジツボ、海外からの外来種の繁殖もあり、その状態を見るのも目的。

フジツボはカニと同じ甲殻類、カメノテも同種。フジツボは波止場のコンクリート壁やテトラポットに石灰質の殻を作り、テトラポットで観察、採取を開始。

生物調査は特別にフジツボ班と貝・魚、カニ・その他、海草・海藻、植物、鳥に分かれて教育実習生も一緒に開始。

採取後、講師の先生にそれぞれの名前を確認(同定)。

大阪湾にはこれまでに13種のフジツボが見つかっており、近木川では8種が見つかっていましたが、今回はシロスジ、タテジマ、アメリカ、クロ、イワ(フジツボ)とカメノテの6種しか見つかりませんでした。また、外来種はアメリカフジツボのみ見つかりました。

貝・魚類31種くらい、カニ・その他30種くらい海草・海藻5種、植物16種、鳥14種で計96種でした。

天気予報では「曇り」だったり、「かみなり予報」が出て心配しましたが、良く晴れ気持ちよく自然に親しみ楽しむことが出来た1日でした。



近木川河口



いざ出陣



新調のテント張り



教育実習生と水生生物科の・・ 山田先生のお話



出来上がったテント



フジツボ観察・採取



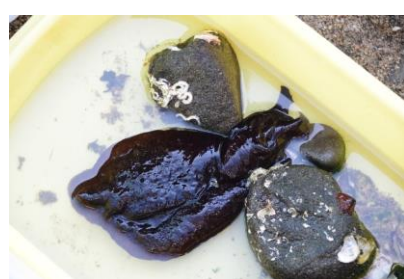
フジツボ



カメノテ



イソギンチャク



アメフラシ



カニの雌雄



コサギ? ダイサギ?



イカのたまご



観察風景

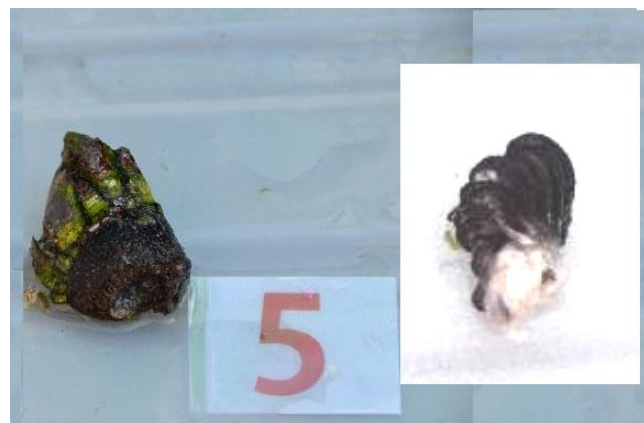
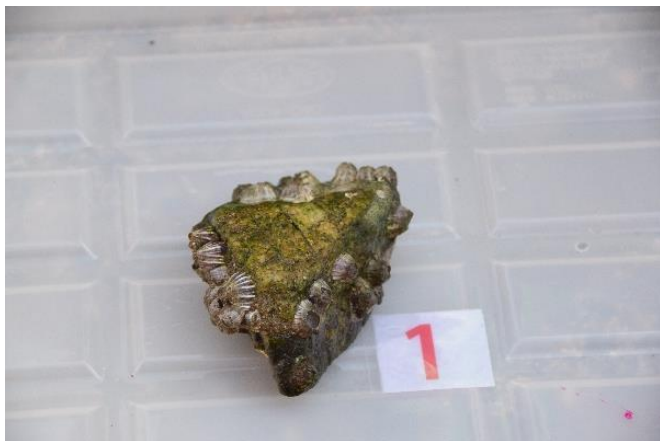


皆で

(写真 浜根・石原 記録 石原)

通番	分類群	写真No.	通番	分類群	写真No.		
29	多板類	29	ヒザラガイ	38	カニ類	7	ユビナガホンヤドカリ
12	二枚貝	12	クチバガイ	39	カニ類	8	ヒライソガニ
13	二枚貝	13	ナミマガシワ	40	カニ類	9-1	ケフサイソガニ(オス)
15	二枚貝	15	マガキ	40	カニ類	9-2	ケフサイソガニ(メス)
16	二枚貝	16	ケガキ	41	カニ類	10	タカノケフサイソガニ
17	二枚貝	17	アサリ	42	カニ類	11	マメコブシガニ
18	二枚貝	18	ムラサキイガイ	43	カニ類	12	ケアシヒライソガニ
19	二枚貝	19	コウロエンカワヒバリガイ	44	カニ類	13	コメツキガニ
20	二枚貝	20	オチバガイ	45	カニ類	14	オサガニ
21	二枚貝	21	ユウシオガイ	48	多毛類	17	ウミケムシ
22	二枚貝	22	ハザクラガイ	49	多毛類	18	ヤマトカワゴカイ
23	二枚貝	23	セミアサリ	57	多毛類	26	カンザシゴカイの一種
27	二枚貝	27	クログチ	58	等脚類	27	フナムシ
28	二枚貝	28	キヌマトイガイ	60	等脚類	29	イソコツブムシ
1	巻貝	1	アラレタマキビ	36	フジツボ類	5	カメノテ
2	巻貝	2	イシダタミガイ	37	フジツボ類	6	イワフジツボ
3	巻貝	3	イボニシ	32	フジツボ類	1	シロスジフジツボ
4	巻貝	4	カラマツガイ	33	フジツボ類	2	タテジマフジツボ
5	巻貝	5	アラムシロ	34	フジツボ類	3	アメリカフジツボ
6	巻貝	6	キクノハナガイ	35	フジツボ類	4	クロフジツボ
7	巻貝	7	ヨメガサガイ	46	ヨコエビ類	15	スジエビモドキ
8	巻貝	8	イシマキガイ	47	ヨコエビ類	16	ユビナガスジエビ
9	巻貝	9	タマキビガイ	50	ヨコエビ類	19	モズミヨコエビ
10	巻貝	10	マルウズラタマキビ	51	その他	20	タテジマイソギンチャク
11	巻貝	11	ウノアシ	52	その他	21	シロホヤ
14	巻貝	14	シマメノウフネガイ	54	その他	23	ヒラムシ類
24	巻貝	24	ヨコスジギリ	59	その他	28	コウイカの卵のう
25	巻貝	25	ツメタガイの卵	61	その他	30	ヒモイカリナマコ
26	巻貝	26	イナザワハベガイ				
30	巻貝	30	マツバガイ	53	魚類	22	イソミミズハゼ
31	巻貝	31	ウミニナ	55	魚類	24	アカエイ
				56	魚類	25	タケノコメバル
62	植物	1	コセンダングサ				
63	植物	2	ハハコグサ	93	海藻類	1	アナアオサ
64	植物	3	ヘラオオバコ	94	海藻類	2	シラモ
65	植物	4	コマツヨイグサ	95	海藻類	3	ワカメ
66	植物	5	ネズミホソムギ	96	海藻類	4	フクロノリ
67	植物	6	エノコログサ	97	海藻類	5	タマハハキクモ
68	植物	7	コメツブツメクサ				
69	植物	8	シロザ	78	鳥類	1	ムクドリ
70	植物	9	ハマヒルガオ	79	鳥類	2	スズメ
71	植物	10	マメゲンバイナズナ	80	鳥類	3	ツバメ
72	植物	11	シロバナシナガワハギ	81	鳥類	4	シロチドリ
73	植物	12	タデ科の仲間	82	鳥類	5	カワラヒワ
74	植物	13	ハマボウフ	83	鳥類	NOIMG	カワウ
75	植物	14	カタバミ	84	鳥類	NOIMG	コサギ
76	植物	15	ナルトサワギク	85	鳥類	NOIMG	コアジサシ
77	植物	16	ハマナス	86	鳥類	NOIMG	ミサゴ
				87	鳥類	NOIMG	ハシブトガラス
				89	鳥類	NOIMG	ハシボソガラス
				90	鳥類	NOIMG	ハクセキレイ
				91	鳥類	NOIMG	ヒバリ
				92	鳥類	NOIMG	ダイサギ

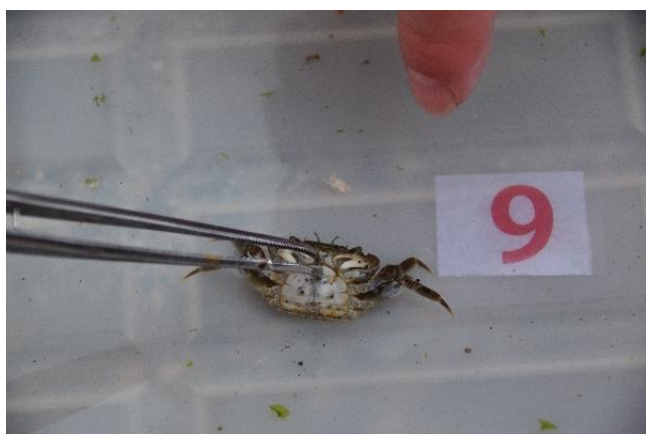
カニ類等 写真データ1



貝類等 写真データ2



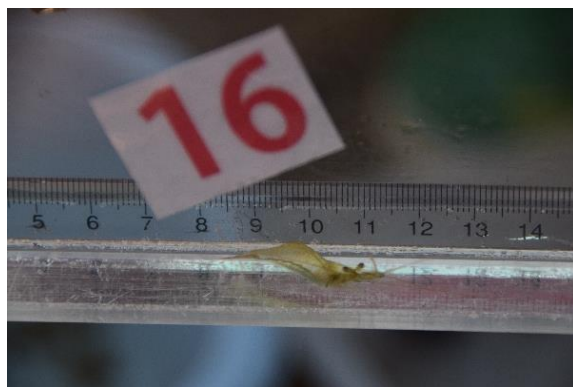
♂



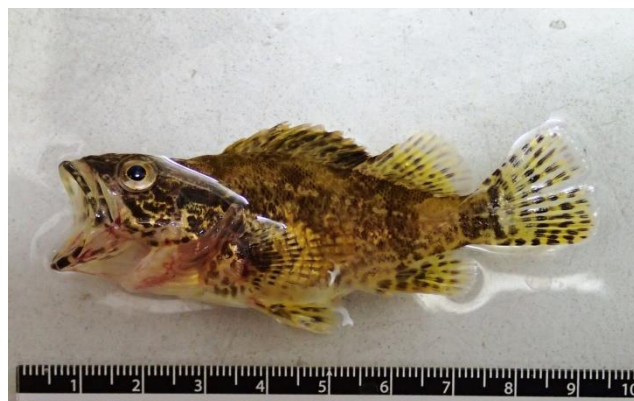
♀



カニ類等 写真データ3



カニ類等 写真データ4



25



カニ類等 写真データ5



貝類 写真データ 1-1



貝類 写真データ1-2



7



9



10



11



貝類 写真データ 1 - 3



1 4



1 5



1 6



1 9

貝類 写真データ 1 - 4



2 4

2 5





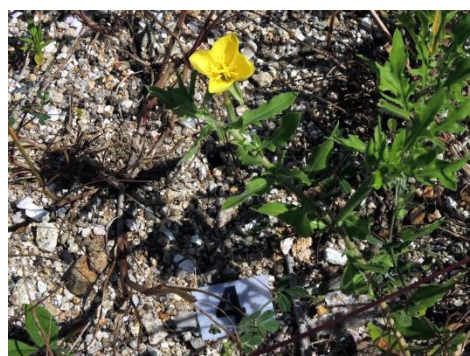
海藻類 写真データ1-1



海藻類 写真データ1-2



近木川の植物





鳥類 写真データ



1



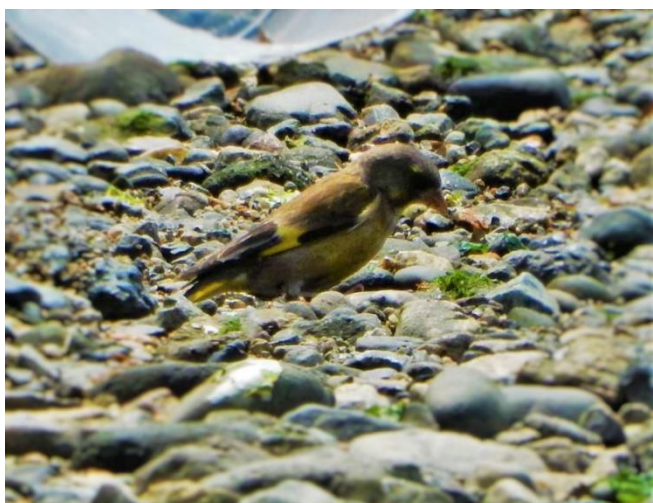
2



3



4



5

大阪湾生き物一斉調査 解説シート

【調査の概要（参加者の方へ）】

- 本調査は指導員が予め定めた範囲で行います。（指導員からの指示があります。）
- 調査範囲において、「調査シート」に記載されている「フジツボ類」、「貝類」、「カニ類」、「多毛類」、「ヨコエビ類」、「植物」、「海藻類」の生き物を探します。みつけたら、その種にチェックを入れます。チェックの入れ方（個体数）については調査シート下段を参照して下さい。なお、「多毛類」、「ヨコエビ類」については、各類の全ての種類を含むものとします。また、種名がわかるものについては、裏面に「多毛類」（ミヅヒトガイ）等、記載して下さい。
- 「魚類」については、見かけた種類を「調査シート」下段に記載します。また、リスト以外に観察できた生物名を調査シート（裏面）に記載します。
- 生き物の名前がわからないときは、「解説ブック」をみたり、現地で詳しい人に聞いて下さい。
- その他、調査の方法などについては指導員の指示に従って下さい。

制作者：大阪湾生き物一斉調査プログラム実行委員会

写真提供：①石垣宏 ②内野透 ③大谷洋子 ④唐沢恒夫 ⑤野元彰人 ⑥淀真理 ⑦大谷道夫 ⑧松村勲 ⑨鍋島靖信 ⑩山西良平

どんなフジツボが見つかるかな？

磯の岩には様々なフジツボが付着しています。この中でも、クロフジツボは水の動きが大きくきれいな外海に近い場所^{そとうみ}に、一方でドロフジツボは真水の影響のある汽水域に生息するなど、それぞれの種がそれぞれに適した環境に生息しています。

どんなフジツボが生息しているかを調べてみましょう。

【調査の方法】

- まずフジツボが付着している岩を探します。
- 岩を見つけたらどの種類のフジツボが付着しているかを確認します。

クロフジツボ（直径3～4cm）

波あたりの強い海岸の中潮帯から低潮帯の岩に群生する大型種。湧いている時は白っぽい。



⑥

アカフジツボ（殻径3cm、殻高2cm）

岩や貝殻などにも付着するが、船底や浮きなどに付着することが多い。磯では時々見つかる程度。



④

タテジマフジツボ（殻径2cm）

内湾から外海まで、港の護岸（潮間帯の中位）などに多い。殻表はなめらかで、暗紫色の縦縞がある。



⑥

シロスジフジツボ（殻径1～2cm）

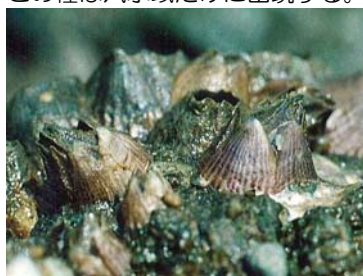
内湾の潮間帯の岩や桟橋、岸壁などに付着する。淡水の流入する水域に多い。黒紫色の地に白色の縦筋が入っている。



⑥

ドロフジツボ（殻径1.5～2cm）

河口付近（汽水域）や低潮帯の構造物に付着する。タテジマフジツボに似て、縦縞を持つが、この種は汽水域だけに出現する。



⑤

アメリカフジツボ（殻径1～3cm）

河口付近（汽水域）や低潮帯の構造物に付着する。楕板に成長線とそれを横切る縦線がある。外来種。



⑤

ヨーロッパフジツボ（殻径1～2cm）

内湾や河口付近（汽水域）に生息するほか、低潮帯の構造物に付着する。楕板に成長線があり、背板は三角形。外来種。



⑥

どんな貝が見つかるかな？

磯の岩の横や下、砂泥の中など、貝は様々な環境に生息しています。たとえばケガキは水のきれいな外海に近い岩上に、一方でマガキ、ムラサキイガイ、ウネナシトマヤガイ、ウスカラシオツガイなどは内湾や河口に生息しています。

どんな貝が生息しているかを調べてみましょう。

【調査の方法】

○岩を探し、どの種類の貝が付着しているかを確認します。

○砂や泥の場所があれば掘って貝を探します。

アサリ (殻高 3cm)

淡水の流入する低塩分の内湾干潟に生息する。殻は長楕円形で、細放射肋と輪肋が交差して布目状になっている。



②

ケガキ (殻高 3~5cm)

外洋性で、外からの海水の影響する潮間帯に多い。岬町~加太の岩礁域(高~中潮帯)に見られるが多くない。パイプ状のとげがある。



⑥

マガキ (殻高 5~10cm)

内湾から河口にかけての広い範囲の潮間帯に多く、岩礁、防波堤、岸壁などに密集して付着する。人工護岸にも広く分布する。



③

⑤

ムラサキイガイ (殻長 4~6cm)

内湾や河口の防波堤・岸壁などに密集して付着する外来種である。殻は青紫色で、内側の真珠光沢は強くない。別名ムール貝。



③

コウロエンカワヒバリガイ

(殻長 2~3cm)

内湾や河口の護岸、カキ殻等に密集して付着する。体は小さく、黒紫色で光沢がある。外来種。



⑤

④

ウネナシトマヤガイ (殻長 4cm)

内湾の石の間や下に付着する。殻は長四角く、殻表の後ろに紫色の放射帯がある。



⑤

ウスカラシオツガイ (殻長 2~3cm)

1985年に初めて大阪湾で確認された外来種。原産国は不明。殻の形はさまざま。



⑥

イシマキガイ (殻径 2cm)

汽水および淡水に生息し、幼貝は汽水域のみでみられ、成長とともに川をさかのぼる性質がある。



⑥

⑥

クチバガイ (殻長 2cm)

河口域潮間帯の砂~砂礫底に生息する。殻は黄褐色の殻皮に被われる。内面は白色。



⑥

イボニシ (殻高 2~3cm)

内湾から外海まで広い範囲の石や防潮堤の壁面の間に付着して棲息する。肉食性でマガキなどを襲って食べる。



③

③

フレリトゲアメフラシ (体長約 10cm)

砂泥地に生息することが多い。体は大小の突起におおわれ、この突起が樹枝状になることもある。背に瑠璃色の多数の眼点ができる。紫汁を分泌。



⑤

タマキビガイ (殻高 1cm)

内湾から外海まで広い範囲の潮間帯上部や石、防潮堤などに付着。隙間などに密集して棲息する。石の表面の藻類などを餌とする。



③

③

アラレタマキビ (殻高 1cm)

潮間帯上部~飛沫帯の岩礁、護岸、消波ブロック上等に生息し、特に間隙・凹みに集中する。タマキビガイより上の方に多い。



⑥

どんなカニ・ヤドカリが見つかるかな？

海岸には、砂浜、磯の岩間、干潟の砂や泥の中、河口部など、その環境条件の違いに合わせて様々なカニが生息しています。中でも、海岸近くの土手、草むらや田畑に生息し、産卵のため海辺との間を行き来するアカテガニは、背後地に自然が残されている場所にしか見られません。

どんなカニやヤドカリが生息しているかを調べてみましょう。

【調査の方法】

○どの種類のカニやヤドカリが見られるかを確認します。

■ 岩の間や石の下に生息するカニ

ヒライソガニ (甲幅 2.5cm)

砂地をともなった磯の転石下に生息する。イソガニに比べて甲が平坦。個体ごとに色彩や模様は異なる。雄はハサミが大きい。



イソガニ (甲幅 3cm)

岩の間や、積み重なった石の間に生息する。内湾の奥や河口の近くにも出現する。紫色の斑点があるハサミと縞々の歩脚をもつ。雄はハサミが大きい。



ケフサイソガニ (甲幅 2.5cm)

汽水域の転石下に生息する。雄はハサミの又に毛が生えている。メスにはない。雄はハサミが大きい。



※よく似たタカノケフサイソガニとの見分け方は、解説ブック参照。

■ 干潟に生息するカニ

ハクセンシオマネキ (甲幅 1.5~2cm)

砂混じりの硬い干潟の中〜低潮帯に穴を掘ってすむ。雄は片方のハサミが大きい。甲羅の模様やハサミの形は様々。



ヤマトオサガニ (甲幅 3.5~5cm)

柔らかい泥質の干潟に斜めの穴を掘ってすむ。甲は横長の長方形で、眼柄が長い。



オウギガニ (甲幅 3.5cm)

中〜低潮帯の石の下の砂地にすむ。擬死をする。



■ ヤドカリ

ユビナガホンヤドカリ (体長 2cm)

内湾河口域の潮間帯に多く生息する。ハサミは右側が大きく、外側には小顆粒が多い。歩脚の先端部は前の節より明らかに長い。タマキビガイ、ホソウミナナ等の小型巻貝の死殻を利用する。



■ 河口部に生息するカニ

アシハラガニ (甲幅 3.5cm)

河口や干潟のヨシ原などに穴を掘ってすむ。生息範囲は広いが、ヨシ原の周辺に多い。雄の眼窩下縁に 16~18 個の顆粒がある。



チチュウカイミドリガニ (甲幅 5~6cm)

内湾の河口域や入江などの低潮帯から潮下帯に生息する。外来種。



クロベンケイガニ (甲幅 3cm)

河川感潮域の潮間帯上部〜陸域のヨシ原・草地に穴を掘り生息する。ハサミには小いぼ・顆粒が多く、紫褐色。歩脚には黒く長い剛毛が目立つ。



ホンヤドカリ (体長 2cm)

岩礁海岸の潮間帯に多く生息する。ハサミは右側が大きく、外側には小顆粒が多い。歩脚の先端部に白色帯があり目立つ。ムギガイ、イシダタミガイ、クボガイ等の小型巻貝の死殻を利用する。



どんな植物が見つかるかな？

かつては海岸の砂浜及びその背後地には様々な海浜植物が群生していました。わずかに残された砂浜、再生された砂浜では徐々に自然が回復し、代表的な海浜植物が見られるようになりつつあります。

どんな植物が生育しているかを調べてみましょう。

【調査の方法】

○どの種類の植物が生育しているかを確認します。

ハマダイコン

（高さ 30～70cm、花 2～2.5cm）

海沿いの人里に生育する。栽培のダイコンが野生化したものと考えられるが、根はあまり大きくならない。花は淡紅紫色（白色も多い）で春に咲く。

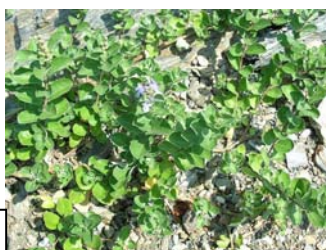


①

ハマゴウ

（高さ 30～70cm、花 1～1.5cm）

木ではあるが、幹は地表をはう。葉は円形または鈍形でウラが白く、対生する。花は紫色で夏に咲く。



①

コウボウムギ

（高さ 10～20cm、穂 4～8cm）

砂浜の海よりに生え、葉にはつやがある。雄花は淡褐色、雌花は黄緑色で春に咲く。大きな穂が特徴。



①

オカヒジキ

（高さ 10～40cm）

砂浜に生育するが、小石の混ざるやや安定した場所に生育することが多い。葉は棒状の肉質で棘状だが、さほど痛くない。茎も緑色。花は夏から秋にかけて咲くが、非常に小さくて目立たない。



①

ハマボウフウ

（高さ 5～30cm、花 2mm 未満）

砂浜に白色の直根を深く伸ばして生育する。厚くてつやのある複葉が放射状にでる。小さな白色の密生した花が初夏に咲く。



①

ハマウド

（高さ 1.7m、花 2mm 未満）

海岸近くに生育する。羽状の大きな葉はギラギラと光をはね返して、海辺の植物らしさにあふれる。傷つけると白い乳液がでる。花は白色で春に咲く。



①

どんな海藻が見つかるかな？

磯の岩には潮間帯に生育する海藻が付着しています。中でも、アナアオサは富栄養化した海域で繁茂します。

【調査の方法】

○まず海藻が付着している岩を探します。

○岩を見つけたらどの種類の海藻が付着しているかを確認します。

アナアオサ

（長さ 5～15cm）

潮間帯上部に生育し、内湾では 50cm 以上にもなる。成長すると広い葉体に小さな丸い孔を生じやすい。着床型と浮遊型がある。



⑥

スジアオノリ

（長さ 10～30cm）

潮間帯の岩の上等に生育する。藻体は管状で、全体に枝分かれがみられる。



⑤

オゴノリ

（藻長 30cm）

浅海、潮間帯の砂泥～砂礫泥底の礫、貝殻等に着生する。



⑨